

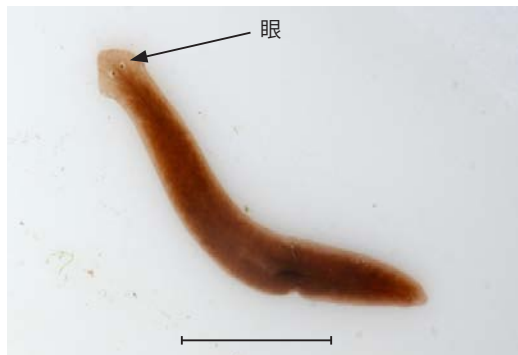
昆虫以外の生き物

河川では昆虫以外にも多くの生き物が見つかりますが、多くの目に分かれていしますので、まとめて昆虫以外として扱わせてもらいます。多くの種類を含んでいるのは、貝類と甲殻類ですが、その他にもウズムシやヒル類、ミミズ類なども生息しています。

サワガニやヨコエビのように上流部のきれいな水に生息する種類もいるのですが、流れが緩やかで植物が繁茂した下流部に生息する種が多く、一般に汚濁に伴い昆虫以外の生き物が増えてくることが多いようです。また、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）やサカマキガイ、アメリカザリガニのように元来日本に生息していなかった外来種も昆虫以外の生き物の中には多く含まれており、最近も新たな外来種が多数見つかっています。

サンカクアタマウズムシ科（ウズムシ目）

2つに切られても再生することで有名なプラナリアの仲間です。ヒルによく似ていますが、頭部が三角形をして横に張り出していること、眼が認められること（ヒルにも眼はありますが肉眼ではなかなかわかりません）等で区別できます。また、動く様子を観察すると、ヒルは伸び縮みしながら動くのに対して、プラナリアは滑るように動く様子からも区別されます。福岡県下ではナミウズムシが広く生息していますが、標高の高い源流部ではミヤマウズムシ（ヒラタウズムシ科）も生息しています。また、近年外来種のアメリカツノウズムシ（p.49）も福岡県内で確認されており、今後在来種への影響が懸念されます。



ナミウズムシ

本種は網を使うよりも、岸近くの流れが緩やかな場所で石を裏返すと見つかりやすいようです。



ミヤマウズムシ（ヒラタウズムシ科）

本種は福岡県下では標高が高い源流部でのみ見つかっています。

アマオブネ科（オキナエビス目）

アマオブネ科の巻貝は海岸の磯で多くの種が観察されます。河川でも、塩水の影響がある河口近くではイシマキガイが生息しています。本種は水槽の掃除用にペットショップなどで売られています。完全な淡水でも生息可能で塩水の影響がほとんどないような場所で見つかることもあります。福岡県のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



イシマキガイ

タニシ科 (原始紐舌目)^{じゅうぜつ}

タニシの仲間は本来水田やため池などの止水域に生息していますが、流れが緩やかな淀みや小水路などで見つかることがあります。



ヒメタニシ

子供達が河川で、「タニシを見つけた」と言って来る場合はほとんどの場合カワニナです。しかし、河川でも流れが緩やかで植物が繁茂した川岸などでは、タニシ科が見つかることもあります。ヒメタニシはまだ比較的普通に見られるのですが、より大型で丸みの強いオオタニシやマルタニシは近年減少しており福岡県のレッドデータブックではそれぞれ絶滅危惧Ⅱ類と準絶滅危惧に指定されています。

リングガイ科 (原始紐舌目)

ジャンボタニシの名前でよく知られていますが、正式な和名はスクミリングガイといいます。水田やため池に主に生息していますが、水田近くの河川では川岸などでよく見つかります。近年、河川ではタニシ科よりもリングガイ科の方がより見つかるようです。



スクミリングガイ



スクミリングガイの卵

本種の赤い卵の塊は水辺の植物や護岸でよく見つかります。

カワニナ科 (盤足目)^{ばんそく}

川にすむ代表的な巻貝でゲンジボタル幼虫の餌になります。タニシとは細長いことで簡単に区別されます。福岡県下では多くの河川でカワニナが普通に生息しており、筑後地方の下流域ではチリメンカワニナが多いようです。福岡県下ではゴヒナという地方名でもよく呼ばれています。ゲンジボタルの餌として放流されることも多いようですが、福岡県内でも河川によって殻の長さや筋などが異なっており、遺伝的多様性の保全のためにはその川に生息しているカワニナを利用し、安易に他の地域の個体を放流しないように注意したいものです。



カワニナ



チリメンカワニナ

ウミニナ科 (盤足目)

河口付近でよく見られる細長い巻貝です。体型はカワニナによく似ていますが、殻の模様で容易に区別ができます。



ホソウミニナ

ウミニナの仲間では最も普通に見られる種です

カワザンショウガイ科 (盤足目)

河口付近のヨシ帯などに多くの種類が生息しており、有明海流入河川に固有な種も知られています。河口付近は人為的な影響を受けやすく、福岡県のレッドデータブックではカワザンショウガイ、クリイロカワザンショウ、オオクリイロカワザンショウ、アズキカワザンショウ、ムシヤドリカワザンショウ、オオウスイロヘソカドガイ (最後の種は河口ではなく海岸の岩礁地帯などに生息しています) の6種類が記載されています。また、ウスイロオカチグサは平地の小河川などの淡水域で見つかります。



カワザンショウガイ

カワザンショウガイ科の中では最も大型で 殻の先端が侵蝕して丸まっている個体が多いようです。



クリイロカワザンショウ

やや細長く、軟体部は黒褐色をしています。



ムシヤドリカワザンショウ

縫合下が帯状に淡色になっているのが特徴です。

ミスゴマツボ科 (盤足目)

河口近くの多少塩水の影響を受ける場所でよく見られますが、完全な淡水域でも見つかることがあります。

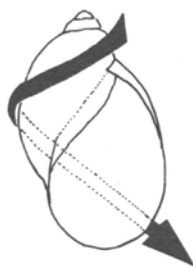


ミスゴマツボ

丸みが強く、殻の表面には筋状の点刻列があります。

モノアラガイ科 (基眼目)^{きがん}

殻が薄い小型の巻貝です。サカマキガイによく似ていますが、巻き方は右巻きで、動いている時の様子を見ると触角が幅広く三角形をしていることで区別されます。福岡県下ではモノアラガイ、ヒメモノアラガイなどが生息していますが、近年外来種のハブタエモノアラガイ (p.49) も各地で見つかっています。モノアラガイは下流部のやや汚れた水域に生息していますが、さらに汚濁が進むといなくなってしまい、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧に指定されていますが福岡県下ではまだ各地で見つかるようです。



尖った部分を上にすると、殻口は右側



モノアラガイ

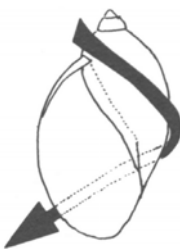
触角は幅広い



ヒメモノアラガイ

サカマキガイ科 (基眼目)

巻貝の多くは右巻きなのですが、本科はサカマキガイ (逆巻貝) の名のとおり左巻きになっています。区別は殻頂 (尖った部分) を上にしたときに殻口が右を向いていれば右巻き、左を向いていれば左巻きと見ることができます。また、動いている時の様子を見ると触角が細長いことでもモノアラガイと区別されます。福岡県下にはサカマキガイ 1 種のみが生息しています。本種は汚濁に強く、汚濁した河川の他下水溝などでもよく見られます。



尖った部分を上にすると、殻口は左側



サカマキガイ

触角は細長い



サカマキガイの卵

水草や石にこのようなゼリー状のものが見つかることがありますが、これはサカマキガイやモノアラガイの卵です。

カワコザラガイ科 (基眼目)

陣笠のような形をした小型の貝です。やや汚れた川に生息しており、水草の葉裏等によくついています。小さくてあまり動かず、殻も半透明なために、野外の観察会では気づかれないことが多いようです。水草を野外から持ってきて水槽に入れてみると、本種が増えてきて、その存在に気づくことがよくあります。



カワコザラガイ

水草に本種がついている様子はカイガラムシがついているかのようです。

ヒラマキガイ科 (基眼目)

名前のお通り平たい殻をもった巻貝です。流れが緩やかで植物が豊富な場所に生息しており、止水域でも見られます。近年減少している種が多く、福岡県のレッドデータブックではヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ共に絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。



ヒラマキミズマイマイ



クルマヒラマキガイ
レンズヒラマキガイとも呼ばれています。



ヒラマキガイモドキ
ヒラマキガイの仲間では最も厚みがあります

シジミガイ科 (マルスダレガイ目)

よく知られた二枚貝です。福岡県下では淡水域にはマシジミ、河口近くの汽水域にはヤマトシジミが生息しています。一般に、ヤマトシジミの方が縦長でより光沢があります。近年、外来種のタイワンシジミが各地で報告されていますが、マシジミとの区別は困難な場合が多いようです。



ヤマトシジミ



マシジミ

ドブシジミ科 (マルスダレガイ目)

シジミガイ科によく似ていますが、小型(10 mm以下)で色は薄く、成長脈(横すじ)が弱いことなどで区別可能です。



ドブシジミ
流れが緩やかでやや泥質の水路や水田などで見られます。

イシガイ科 (イシガイ目)

大型の二枚貝で「カラスガイ」とよく呼ばれますが、真のカラスガイは福岡県には生息していないものと思われます。下流部の砂泥質の場所に生息しており、農業用水路などでも見られます。人為的な影響を受けやすい場所に生息していることもあり、多くの種が近年減少しています。また、淡水魚のタナゴ類はイシガイの仲間に産卵することが知られており、イシガイ科の保全はタナゴの繁殖のためにも重要です。



イシガイ

やや細長い貝で砂地の河川などで見られます。



トンガリササノハ

名前のおり先がとがった笹の葉のような形をしており、他の種とは容易に区別がつきます。



マツカサガイ

表面が松かさのようにでこぼこしていることから、マツカサガイと呼ばれています



ニセマツカサガイ

マツカサガイによく似ていますが、殻の後端が湾入することなどで区別されます。福岡県の標本を元に記載された種で、学名の yanagawensis は柳川を意味します。

イトミミズ科 (イトミミズ目)

多くの種を含んでおり、汚濁に強い種もありますが、きれいな水で見つかる種もあります。



エラミミズ



イトミミズ科の一種